



































チャレンジ項目記入数

23

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内でも共有、実践している。	●		グループ理念「TOPPAN's Purpose & Values」および中期経営計画について、ポータルサイトやe-learningなどを通じて社内教育を全社的に実践しており、熊本営業所でも受講している。								8	9								17
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		「TOPPANグループ行動指針」を定め、周知徹底を図ることで従業員の職務執行の適法性を確保している。コンプライアンス推進体制を構築すると共に、コンプライアンス遵守教育と取引関連法規遵守の教育実施を全社的に実施、熊本営業所でも受講している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.148-149																16	
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		「TOPPAN グループ腐敗防止方針」を制定すると共に、「贈賄防止管理規程」「贈賄防止管理ガイドライン」制定、贈賄防止に関する教育を全社的に実施、熊本営業所でも受講している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.150										10						16	
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ推進委員会を設置、さらに下部にSDGsおよびESG(地球環境、サプライチェーン、人的資本)に関するワーキンググループを設置し、施策立案、実行を担当している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.9																16	
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		「TOPPANグループ知的財産基本方針」を制定し、知的財産の侵害防止に向けた教育を全社的に実施、熊本営業所でも受講している。 ・TOPPANグループの技術系社員を対象とした知財研修体系を構築し、研修を実施、知財マインドの向上を図っている。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.71-73								8.2 8.3	9							16	
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		「個人情報保護方針」を策定し、全国に展開するセキュリティエリアでの個人情報取り扱いの徹底を行っている。また情報セキュリティに関する第三者認証(ISMS,PMS)も全国で取得している。熊本営業所においても個人情報を送る場合にはセキュリティガード便を使う等、情報セキュリティ管理部の指導内容をもとに管理・徹底している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.154																16	
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		TOPPANグループは、ステークホルダーの皆さまに対して自らの意見を発信し、適切な情報開示を行うとともに、皆さまの声に耳を傾け、建設的な対話を通じて相互理解を深めていくことが重要であると認識している。 お客様企業に向けては、ニーズを迅速に把握して製品・サービスの改善や開発に積極的に取り組むと同時に、継続的なお客様満足度調査を行っている。 お取引先様に対しては、サステナブル調達ガイドラインを通じたサプライチェーン全体のESG課題解決に向けた取り組みを推進している。 投資家はじめ株主に対しては決算説明会や株主総会の開催、IRレポート等の発刊等を通じ、開示・対話の強化に取り組んでいる。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.79-82																16	17
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●		TOPPANグループは「TOPPANグループサステナブル調達ガイドライン」を策定している。同ガイドラインをサプライチェーン全体に広げるため、主要なビジネスパートナーに対し周知・遵守と現状調査・フィードバックと是正のサイクルを回すことで、ビジネスパートナーと協力して持続可能な調達活動を推進している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.60-67					5			8		10		12	13	14	15	16	17
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。	●		災害時対応体制の最高機関である全社対策本部が、複数拠点の同時被災を想定した情報収集訓練、災害時の対応手順を想定した災害対策基本計画の改訂、活動環境(本部指揮所)の整備といったBCP策定、アップデートを行っている。 また、セキュア系の事業部門はBCMS(ISO22302)の認証を取得している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.145-147									9		11		13.1			16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●		経営者人財の育成の取り組みとして、主要ポスト(相応の経験と能力を備えた人物が担うべきポスト)に配置する人財を計画的に育成し、組織の競争力の維持・向上を図っている。 また、人的資本ポリシーに則った従業員対象の人財開発プログラムも実施、「人、資産、知的資産」の継承を計画的に推進している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P31 -33								8	9								17
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。	●			1	2			5			8				12	13	14	15	16	17
















チャレンジ項目記入数

23

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内でも差別や人権侵害がないことを確認している。	●		人間尊重の基本精神を基にした「TOPPANグループ人権方針」を策定し、あらゆる差別、ハラスメント行為を禁止しており、グループ企業全社に対して、自己評価アンケートによる影響評価を踏まえた「ジェンズプロセス」を実施している。 また全従業員に対し、「職場におけるハラスメントの防止に向けて」の教育を実施。また、人事労政部門に相談窓口を設置し、予防と対処に取り組んでいる。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.25-28				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		「安全はすべてに優先する」を第一義にTOPPANグループ全体で災害ゼロを目標に安全・安心な職場づくりを推進している。 全国事業所に推進体制を構築し、設備の安全化や教育の徹底を推進している。危険を理解・体感できる「安全道場」を国内外7拠点に開設し、安全活動強化と災害予防活動に取り組んでいる。また、メンタル不調者を出さない職場づくりにも注力している。 ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.28,54-57				3				8.8									
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		各国の法令と現地の生活物価を踏まえ、従業員に適正な給与を支払を遵守している。金銭的報酬に加え、法令で定める福利厚生や、働きがいの向上や自己実現・キャリア開発に対する会社の支援・サポート等の非金銭的報酬も配慮している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.29					5.5			8.5		10.2 10.3							
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		ワークライフバランスの推進に向けて、継続的に開催している経営協議会や労使委員会の中で、さらなる残業時間短縮施策、また法改正への対応に関して意見交換および協議を行うとともに、残業実態の分析、新たな勤務制度の活用状況・導入の検証も行っている。また、休暇の取得促進に向け、職場風土のあり方も含めて事業所ごとに労使で協議し、それぞれの実態を踏まえた施策を検討・展開している。さらに、在宅・サテライトオフィス・モバイルの3つの勤務体系を包括した「リモートワーク制度」、裁量労働による「フルリモート勤務」など、ニューノーマルな働き方を目指した勤務制度を導入している。寮・食堂・保養施設・運動施設の設置や、資産形成補助、育児・介護・疾病等に対するライフサポート制度の充実や休暇取得の推進も行っている。 ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.58-59				3		5.5			8.5 8.8		10.3						
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		TOPPANグループの人的資本ポリシーに基づき構築した人財開発プログラム体系を「TOPPAN UNIVERSITY」とし、基礎・専門プログラム、リーダープログラム、自己啓発プログラムの枠組みでスキルアップ、キャリアアップを支援するとともにリーダーの育成を推進している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.32-33				4	5.5			8	9								
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		健康と安全については、「健康経営宣言」「安全衛生・防火基本方針」を策定し、それぞれの取り組みを進めている。健康経営については、健康経営推進協議会を設置し、TOPPAN健保とともに「コラボヘルス」を行うとともに、メンタルヘルスケアとして、心身のコンディション向上や対話力アップといった「ゼロ次予防」を推進している。外部の専門家の知見を取り入れた社内教育や研修も実施している。災害リスク軽減の推進については、人事労政が各事業所を訪問し、安全活動の確認と、現場のパトロールを実施している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.54-57 ※項番13も含む				3				8								17	
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		2019年にダイバーシティ推進室を発足し、D&Iを全社的な経営戦略として進化、加速させていくための方針策定や施策の企画・立案を担い、各社・各事業所のダイバーシティ推進委員と連携してD&I施策を推進している。 (具体的な取り組み)仕事と育児／介護の両立支援(ケアプログラムの提供や制度の充実)、障がい者雇用の促進(特例子会社 チャレンジドプラストッパンとの連携による業務遂行サポート) など ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.47-53				4.4	5.1 5.5			8.5		10.2 10.3						16.7	
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェビ会議等を導入している。		●	在宅・サテライトオフィス・モバイルの3つの勤務体系を包括した「リモートワーク制度」、裁量労働による「フルリモート勤務」など、ニューノーマルな働き方を目指した勤務制度を導入している。 ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.58-59				3					8	9.1		11	12				
20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。		●	DX推進コンセプト「Erhoeht-X(エルヘートクロス)」のもと、グループで約3,000人のDX専門人材が自社の変革だけでなく、各事業所とも連携し社会や企業のデジタル変革を支援している。(例)小中学生向けデジタル教材:navima、多言語AIサイネージ、地域創生決済サービス:地域Pay、水害・防災シミュレータ:防災VR等 また、全国5か所に設置したICT KOBOでは、その土地の産業のDXや自治体との協業による地域のDXなどに取り組んでいる。(例)RemoPick遠隔作業支援サービス、PosReまちの情報集約発信サービス、鳥検知ドリフト音検知エッジAI開発、製造業の品質判定AI開発、畜産現場牧草地の草量計測、獣害対策餌センサーの開発、窓口ペーパーレス化SpeedEntryシリーズ 他									8	9.1		11	12					
21	【ブライト企業】 ・ブライト企業に認定されている。		●					3	4					8	9			12				


















チャレンジ項目記入数

23

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		各事業所にエコガード推進委員会を設置し、法規制値よりも厳しい自主基準値を設定・遵守することで環境汚染の予防に取り組んでいる。 廃棄物処理:中長期環境目標で目標値を設定し、排出量削減、マテリアルリサイクル率の向上に取り組んでいる。(例)紙くず／再生紙、廃プラスチック／パレット化など化学物質:使用量削減に努めると同時に、国内外の化学物質に関する規制・法制に則った「原材料化学物質管理基準」を定めて使用を禁止・制限する物質を明示し、各事業所で化学物質の管理手順を定めて適切に管理している。 リスク管理の一環としても、生産活動で想定される緊急事態への対応訓練もその都度見直し、環境汚染の予防と未然防止に取り組んでいる ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.121ー22、125、128			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1		
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		エネルギーマネジメントは脱炭素社会への貢献の取り組みの一環として、ISO14001の枠組みの中でエネルギー効率を把握し、目標化して改善の進捗管理を実施している。 具体的には、各事業所からマネジメントシステムを通じて月次のエネルギー消費量の報告を受け、過去のデータや定量化された目標に対する達成度と比較してトレンドを把握・分析することにより、早期に無駄なエネルギー使用箇所を特定し、効率的なエネルギー管理を実現している。経営層へは定期的に実績の報告を行い、目標の進捗に対する経営層からの監督、フィードバックを受けている。さらに、エネルギー監査では、省エネ法の要求事項に基づき、事業所単位のエネルギー総括表やエネルギーフロー図を年1回見直す形で実施し、これにより設備の増減の影響なども反映させることで改善の機会を特定している。 エネルギー使用量についても把握、レポートで開示している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P111,116							7.3					13					
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		脱炭素社会への貢献のために、CO ₂ を含む温室効果ガスの排出総量の削減に取り組んでいる。 Scope1(自社での燃料の使用や工業プロセスによる直接排出)に対しては、長時間使用しているユーティリティ設備の計画的かつ高効率な設備への更新の実施や、半導体製造プロセスから排出される温暖化係数の高いガスの除害装置設置や低い温暖化係数のガスへの代替を行っている。 Scope2(自社が購入した電気、熱の使用に伴う間接排出)に対しては、省エネ活動や太陽光パネルをはじめとした再生可能エネルギーの導入による電力使用量の低減のほか、CO ₂ 排出係数が低い電力契約の検討を進めている。 Scope1、2、3バリューチェーン全体での温室効果ガス排出削減目標について、国際的なイニシアチブ「SBTi(Science Based Targets initiatives)」から「ネットゼロ目標」としての認定を取得。毎年進捗を報告している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.111-116		2.4						7.2 7.3 7.a				12.4	13	14	15		
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		「生物多様性に関する基本方針」を制定し、持続可能な用紙調達、用紙のリサイクル徹底、グリーン購入の推進、事業所緑地の利用、近隣地域の保全・修復活動、間伐材を使用した紙製品による森林の健全な育成、木材代替建築材商品・化粧シートの提供による森林資源への依存軽減、メタパースを活用した知育コンテンツ作成などを行っている。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.117-120						6.6							14	15			
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		TOPPANグループ地球環境宣言に則り、限りある資源の有効活用のために、廃棄物の排出量削減、再資源化、適正処理を実施している。 具体的な取り組みとして、紙の資源循環を最大化させることで森林の新たな利用を抑制できると考え、原材料のうち製品にならない紙のマテリアルリサイクルを徹底している。自社製品紙製の缶「カートカン」は飲料として社員が購入・消費したものは回収し、トイレットペーパーに再生使用している。 環境配慮パッケージの提供によるリサイクル適性の向上、木材代替建築材商品・化粧シートの提供による森林資源への依存軽減なども行っている ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.121-124								9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15			
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		事業所ごとに水の使用量や汚染状況に応じた排水処理施設を設置している。排水量の多いエレクトロニクス事業分野の事業所(玉名市含む)では排水リサイクルシステムを活用した水の回収・再生により、取水量と排水量の削減に取り組んでいる。規制対象内外の設備について、劣化状態の確認、更新を行い、薬液などの漏洩による土壌・地下水汚染の未然防止に取り組んでいる。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.127		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b				11.5			14.1 14.2 14.3	15		17	
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		間伐材を使用した紙製品「カートカン」で森林の健全な育成に貢献、木材代替建築材商品・化粧シートの提供による森林資源への依存を軽減している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.104,119									9.4			12.4 12.5	13	14	15		


















チャレンジ項目記入数

23

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。		●	機能性パッケージの提供により、賞味期限延長とともに需要・供給を最適化し、1次産業から生活者までバリューチェーン全体で食品ロスを削減している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.16	1	2				6.4						12.3		14	15		17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。		●	グループ会社TOPPANエッジが東京グリーンシップ・アクションに2009年から参加している。対象地区で樹木の成長に必要な下草刈りや間伐を実施している。 総合研究所(埼玉県杉戸市)敷地内のビオトープを含む緑地が環境省に自然共生サイトとして認定されている。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.16,20											11.6 11.7		13.1 13.3		15		17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善またはや再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。		●	高効率な設備の導入／既存設備からの切り替えを進めると同時に、インターナルカーボンプライシング(ICP)を導入することで、さらなる高効率機器の導入を促進している。全国拠点への太陽光パネルの設置など、再生可能エネルギーの比率向上にも取り組んでいる。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.111							7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3				
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・”伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。		●	自社製品紙製の缶「カートカン」は飲料として社員が購入・消費したものは回収し、トイレトペーパーに再生使用している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.117						6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。		●	TOPPAN グループでは「森林資源の持続可能な利用に配慮した用紙調達ガイドライン」を策定し、森林保全を目的として、紙の原料となる木材の合法性調査、紙のマテリアルリサイクル徹底を行っている。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.117						6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。		●	海洋ブラ問題などプラスチックごみ問題への対応として、パッケージのモノマテリアル(単一素材)化によるリサイクル適性の向上に注力し、軟包材に使用される主要素材(PE、PP、PET)を基材とするバリアフィルムを開発している。パッケージへ展開することでモノマテリアル化を推進、プラスチックごみ削減に貢献している(熊本営業所でも得意先パッケージの切り替えによる貢献活動を実施) ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.104												12.2 12.5		14			
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。		●	水素自動車の実用化に向けて、水素と空気で発電し、水のみを排出するゼロエミッション発電デバイスである燃料電池中核部材であるMEA(Membrane Electrode Assembly)の開発を推進している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.69									9.4		11.2		13.1 13.3				
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。		●	TOPPANグループのバリューチェーン全体での温室効果ガス排出削減目標について、国際的なイニシアチブ「SBTi(Science Based Targets initiatives)」から「ネットゼロ目標」としての認定を取得している。 1.5℃排出経路に沿った削減取り組みでも、なお削減しきれない排出量は、革新的な技術開発・導入や投資を行う事で、森林由来吸収や炭素除去技術等を活用し、実質ゼロを目標に取り組んでいる。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.91							7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13				17.2

チャレンジ項目記入数

23

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		製品・サービスを含めた品質づくりを「品質総合保証」と定義し、サービス・製品両面での品質向上に取り組んでいる。 製品については、「製品の安全管理についての基本理念」と「製品の安全管理についての指針」を定め、全事業所でISO9001に基づいた品質マネジメントシステムを構築、製品の品質保証および継続的な改善活動を推進している。 サービスについても、「TOPPANグループサービス品質基本方針」を制定し、その中で「サービスの品質管理についての基本理念」を定め、サービス品質統括室を設置し、品質のチェックや診断・改善を行っている。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.74-77			3.9						9			12.4					
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		2010年制定のTOPPANユニバーサルデザイン宣言の7原則のもと、コミュニケーション、パッケージデザインの両領域で「対応指針」をまとめた。2020年にUD関連ビジネスをD&Iソリューションとしてアップデートし、対応領域を拡大中である。(例)翻訳ディスプレイ、多言語AIサイネージ、認知症体験VR、絞り出しやすいチューブ、電子レンジ調理ができるチャック付きパウチ、ボトル型衛生ウェットシート容器、医薬品向けバリアフリー包材、バイオマスプラスチック容器他 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P.52-53									9.1	10	11.7					17	
	39	【地域資源】 ・産地地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●	南阿蘇村および近隣地域で収穫された農産物の地元での消費を目的として、地域の生産者と実需者をアプリ上でつないで需給情報をマッチングする実証実験を実施している。食農業の需給マッチングプラットフォーム「ジモノミッケ!®」を活用している。		2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●	各地に新設しているDX拠点において、地域の木材を使用したオフィスを整備している。 例)ICT KOBŌ MIYAJIMA https://ict-kobo.toppan.com/miyajima							7				12.2	13.1		15			
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●	事業おいてさらにグローバルな社会課題に積極的に対応するため、「TOPPAN SDGs STATEMENT」を策定している。 具体的な取り組みとしては、全国5か所に設置したICT KOBŌではその土地の産業のDXや自治体との協業による地域のDXなどに取り組んでいる。(例)RemoPick遠隔作業支援サービス、PosReまちの情報集約発信サービス、鳥検知ドリフト音検知エッジAI開発、製造業の品質判定AI開発、畜産現場牧草地の草量計測、獣害対策餌センサーの開発、窓口パーパーレス化SpeedEntryシリーズ 他	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に取り組んでいる。		●	各地域において自治体・民間企業との連携のもと、農林水産への貢献に取り組んでいる。 (例)「地域活性化起業人制度」等を活用した新たな農業支援法人の設立を目指す『真庭版農業支援サービス事業体設立』プロジェクトへの参画、沖縄県うるま市にある勝連漁業協同組合と協力しモズク生産の効率化を目的とした漁業DXソリューションの実証実験を開始、大牟田市内で発生しているイノシシによる獣害の低減に向け獣害対策IoTシステムの実証を実施 等		2.3 2.4							8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		・玉名市産業祭「大俵まつり」に毎年参加している。 ・玉名にある工場周辺の市道やその周辺の清掃・除草作業に参加している。 ・熊本赤十字血液センターへ献血協力を行っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		・複合災害に備え、避難グッズを1人1セット準備している。 ・ニューノーマルに対応した訓練を実施している。 ・防災ホームページによる情報発信を全社的に実施、熊本営業所でも活用している。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P145-147				4							11.5		13.1			16	
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●	自社の社会貢献活動テーマに「コミュニティ:地域団体やNPO・NGO等と連携した各種活動へ参加している。(3)地域防災・消防活動への参加、協力」を掲げ、地域防災・消防活動へ参加しているほか、近隣住民への自社施設・備蓄品等の提供も行っている。 ※ご参考:トッパンサステナビリティレポート2024 P83,87	1.5		3	4						10.2	11.5		13.1			16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●	「予防・減災」「発災・避難時」「避難生活」各シーンで活用する商品を熊本営業所でも販売している。 (例)避難所開設キット、防災教育用VR開発、防災学習アプリの開発、災害シミュレーションVR開発 他									9		11	12	13.1				
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●	企業のサステナブルな取り組みを楽しく・分かりやすく伝える学びと体験の場「ミライーね!」を運営している。(例)楽しくSDGsを学べるカードゲーム、YouTubeチャンネル 他 ※ご参考: https://solution.toppan.co.jp/ds/service/miraine.html	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	2023年より九州事業部のショールームで西南学院中学校の職場見学・体験学習を受け入れており、2025年も実施予定である。				4					8.6		10.2						17
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●	グループ会社である東京書籍が全国7000校110万人が利用するキャリア教育・職業調べサイトを運営し、教材を提供して、若者の地元定着等に貢献している。 ※ご参考:https://ashitane.edutown.jp/				4.4					8.5 8.6								17
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●	グループ会社である東京書籍が全国7000校110万人が利用するキャリア教育・職業調べサイトを運営し、教材を提供して、農林水産業の担い手確保に貢献している。 ※ご参考:https://ashitane.edutown.jp/		2		4.3 4.4 4.5					8.6		10.2		12	13	14	15	